

3 性別

〈表2〉のとおり、男女ほぼ同じ割合であった。

4 入院日数

「1か月～2か月未満」が全体の約1/4弱で最も多く、平均入院日数は62.2日であった〈図1〉。わが国の平均在院日数37日注)と比較すると25日程長かった。また、「付添ありの患者」だけをみると、平均入院日数はさらに長くなり、76.6日であった。

5 入院した診療科

大きく内科系診療科、外科系診療科、その他の3つに分類してみると、外科系に入院している患者が多かった〈表3〉。

6 居住地の都市度

地域によっては、家族が入院した場合には必ず誰かが患者のそばについて療養生活上の世話をするのが慣例というようなことを耳にする。本項目で、そのような地域差を確かめようとした。

表3 入院した診療科

診療科	実数 (%)	そのうち付添のついていた患者数
内科系	437 (34.0)	132
内 科	304 (23.6)	87
呼 吸 器 科	23 (1.8)	10
消 化 器 科	42 (3.3)	9
循 環 器 科	41 (3.2)	14
神 経 内 科	27 (2.1)	12
外科系	745 (58.1)	335
外 科	234 (18.2)	129
整 形 外 科	164 (12.8)	56
形 成 外 科	9 (0.7)	1
脳 外 科	42 (3.3)	27
婦 人 科	159 (12.4)	45
眼 科	40 (3.1)	34
耳 鼻 科	36 (2.8)	9
皮 膚 科	14 (1.1)	5
泌 尿 器 科	47 (3.7)	29
その他の科	40 (3.1)	17
無回答・不明	62 (4.8)	27
計	1284 (100.0)	511

地域の概念を、都市から郡部まで都市化されている程度に4段階に分類（以下都市度という）した。都市度別の調査対象者数は〈表4〉のとおりであった。

II 患者からみた付添看護の現状

ここでは「付添ありの患者」の現状を把握する。

1 主な付添者

主に誰が付添ったか（以下「付添者」）を基準看護病院、普通看護病院別にみると〈図2〉のとおりであった。

基準看護病院では、家族付添が最も多く、付添婦のついた患者は、7.4%と少なかった。これに対し、普通看護病院をみると半数以上が付添婦であり、

家族付添よりも多かった。患者調査でも普通看護病院で、多くの付添婦がついていることがわかる。

施設調査・家族調査も同様な傾向がみられるが、このことは、普通看護病院では付添が認められていて、患者家族側も病院側に気がねなく付添婦を雇用できること、雇用した場合、健康保険から付添看護料の現金還付を受けられる等の要因が影響していると思われる。

また、これと患者の居住地の都市度との関係

図2 基準看護，普通看護病院別付添者の内訳

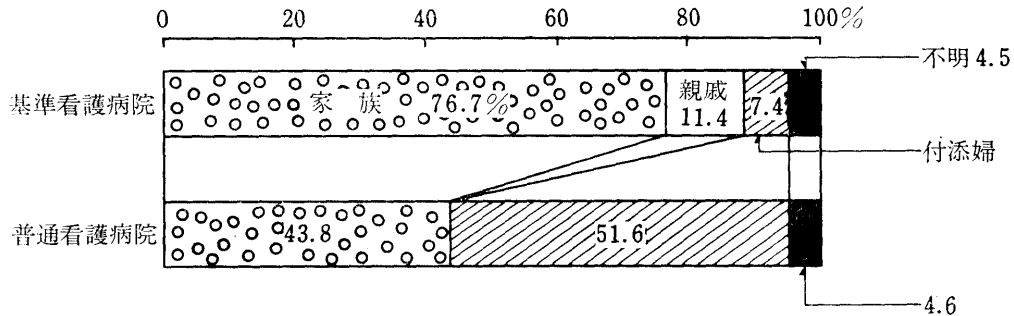


表4 居住地域の都市度

都市度	実数 (%)	そのうち付添がついていた患者数
政令市	341 (26.6)	69
県庁所在地	204 (15.9)	118
その他の市	423 (32.9)	171
郡部	262 (20.4)	125
無回答・不明	54 (4.2)	28
計	1284 (100.0)	511

表5 都市度別付添者の内訳け (%)

都市度	家族	親戚	付添婦	付添者不明	計
政令市	60.9	8.7	23.2	7.2	100.0
県庁所在地	71.1	10.2	13.6	5.1	100.0
その他の市	70.2	8.8	14.6	6.4	100.0
郡部	84.0	12.8	2.4	0.8	100.0
平均	72.6	10.0	12.9	4.5	100.0

をみると，都市度の高い地域ほど付添婦がつけやすいことがうかがえる<表5>。その理由として，核家族化の進行の上，都市ほど家庭にいる主婦などが勤めに出る割合が高くなり，いざ家族の誰かが入院しても容易には付添えないため，都市の「付添婦」の需要を高め，その結果看護婦家政婦紹介所など供給態勢も整えられているという背景も考えられよう。

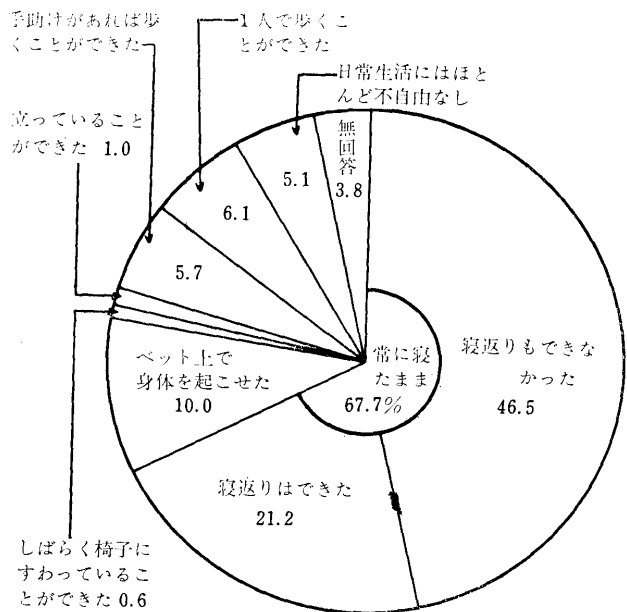
患者の年齢による付添者の違いをみると，家族

付添の場合の患者の平均年齢が44.6歳であるのに対し，付添婦がついた患者の場合は53.6歳と高いことがわかった。このことから，若年者よりも高齢者の方が，より多く付添婦を雇っていると推察できる。

2 付添がつきはじめた頃の患者の状態

家族や付添婦などがつきはじめた頃の患者の状態は<図3>のとおりである。やはり日常生活の自由度が低い「常に寝たまま」が多く，全体の

図3 付添がつきはじめた頃の患者の状態



67.7%であった。

患者が入院した診療科によって付添がつきはじめた頃の状態に差があった。内科系診療科では「常に寝たまま」が55.3%であるのに対し、外科系では74.6%であった。施設調査で、どうい理由で付添をつけるのかという設問に対し、「術後だから」が2番目に多い理由としてあげられていたが(P11参照)やはり外科系診療科の手術前後の看護と付添の有無との密接な関係が患者調査からも明らかになった。

3 付添のついた期間

53.6%の人が10日以内であった。しかし、「6か月～1年未満」「1年以上」付添ってもらったと答えた患者も若干おり、家族が付添っても、付添婦を雇った家族にしても、計りしれない苦労があると言えるであろう<図4>。

そこで付添者別の付添期間をみると、家族付添の場合の平均付添日数は31.6日、付添婦の場合は

図4 付添のついた期間

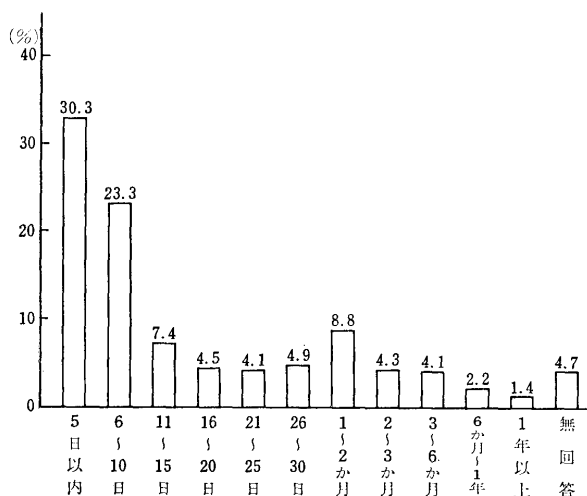


表6 家族付添、付添婦別
入院期間のうちの付添期間の占める割合

付添者	a 付添日数平均	b 入院日数平均	a/b (%)
家族付添	31.6日	67.9日	46.5
付添婦	55.8	120.3	46.4

55.8日で、付添婦の方が長い期間付添していることがわかる。また、入院期間中における付添期間の割合をみると<表6>のとおりである。このように患者調査に限っていうならば、家族付添も付添婦も全入院期間のうち、おおよそ半分の期間付添していることがわかる。

また、患者の年齢による付添期間の違いをみると、年齢を50歳で区切った場合、50歳未満の患者の平均付添日数は20.3日、50歳以上であると43.9日であった。年齢が高くなるほど付添期間も長いことがわかる。

入院した診療科をみると、外科系診療科の方が付添は多くついていても(P22参照)、その付添期間は外科系の方が短く、平均22.5日、内科系は47.6日と格段と長くなっている。外科系疾患の場合、症状が急性に経過し、比較的短期間で治癒するが、内科系の場合慢性的に経過し、長期的な療養となるので付添期間が長くなると思われる。

4 付添のついた時の病室

個室だけではなく、2人部屋、3人以上の病室

表7 付添がついていた時の病室

部 屋	実 数	そのうち「常に寝たまま」
個 室	113	86 (76.1%)
2 人 部 屋	82	58 (70.7)
3 人 以 上 の 部 屋	308	195 (63.3)
無 回 答 ・ 不 明	8	6 (75.0)
計	511	345 (67.5)

にも多く付添がついていることがわかった<表7>。

その病室で付添がつきはじめた頃の状態をみると、3人以上の大部屋よりも2人部屋の方が、それよりも個室の方が「常に寝たまま」の患者の割合が多くなっていることがわかる。

5 付添への満足感、及び不満の内容

1) 満足感

付添ってもらって「満足だった」「まあ満足だった」と感じた患者は、あわせて92.0%とほとんどであった<表8>。ほんの一握りの人だけが付添に対して「不満が残る」と感じている。

表8 付添への満足度

付添者	満足だった	まあ満足だった	不満が残る	無回答	計
家族	311 (83.8)	40 (10.8)	4 (1.1)	16 (4.3)	371 (100.0%)
親戚	42 (82.4)	3 (5.9)	2 (3.9)	4 (7.8)	51 (100.0)
付添婦	40 (60.7)	16 (24.2)	7 (10.6)	3 (4.5)	66 (100.0)
付添者不明	17 (74.0)	1 (4.3)	5 (21.7)	— (—)	23 (100.0)
計	410 (80.3)	60 (11.7)	18 (3.5)	23 (4.5)	511 (100.0)

付添者別にみると、付添婦がついていた患者の方が家族付添の患者よりも「不満が残る」と感じている人がやや多い。

2) 不満の内容

「まあ満足だった」「不満が残る」と答えた患者78名に、その不満の内容の選択肢を設け、複数回答でたずねた。

その結果、比較的多かった不満は、「気がねしながら頼みごとをしていた」(22名)であり、次いで「頼みごとをしても思うようにやってくれなかった」(19名)であった。しかしながら、現在、社会的問題となっている付添婦を雇うことでの経済的負担を問題にした「付添料が気がかりだった」は、特に不満となって表われなかった。

III 付添看護についての意識

1 付添についての希望

1) 付添は患者の希望でついたか

「付添なしの患者」も含めて、入院中に付添ってもらいたいと思ったのかどうかを尋ねた。

まず、「付添ありの患者」で患者自身も「是非付添ってほしかった」と思った人は、半数以上であった。「できたら付添ってほしかった」と思った患者を含めると、84.6%が付添を希望していた

ことになる。一方、「付添なしの患者」では、付添ってほしかったと思う人は17.8%にとどまり、逆に「付添ってほしいとは思わなかった」患者は74.4%にものぼった<図5>。このように、付添のつくことに関しては、だいたい患者本人の希望どおりになっていることがわかった。

また、「是非付添ってほしかった」と答えた患者の状態は、79.1%が「常に寝たまま」であった。やはり、日常生活の自由度が低い人ほど付添を希